

深セン市における大芬油画村の変遷

Transition of Dafen Oil Painting Village in Shenzhen

章 璐* 黒田 乃生**

Lu ZHANG Nobu KURODA

Abstract : Since 1989, about 60% reproduction paintings in the world are produced in Dafen village (Shenzhen) and exported to all over the world. In 2004, Dafen oil painting village was registered by Chinese government and got support from the central government and Shenzhen government as a successful example of "cultural industry". Influenced by the world financial crisis in 2008, Dafen oil painting village also advocated to original creations from a production base of reproduction pictures. This research aims to clarify the changes in the development, management, and policies of Dafen oil painting village. The objective of the research is to consider the state of Dafen oil painting village from the perspective of the Chinese contemporary art. The results show that even if with advocating original creation by the government, because of giving priority to the short-term profit, the boundary of reproduction picture production and original work creation is ambiguous. As an art district managed by government, support is desirable in an art creation and various expressions besides the profit for a policy. To keep the artistry of Dafen as an art district, each administrative structure is shared clearly and the management added to the special quality of both of original work and reproduction picture are necessary.

Keywords: art district, Dafen Oil Painting Village, cultural industry

キーワード : 芸術区, 大芬油画村, 文化産業

1. はじめに

(1) 研究の背景と目的

中国では 2006 年から中央政府によって「文化産業」の強化と市場の育成の推進が始まった¹⁾。経済力がある都市に「文化創意産業園」を開発し、それに関わる人材を集約する目的である²⁾。この「文化産業」には現代芸術をはじめとする芸術産業も含まれており、経済重視の芸術のありかたには課題も指摘されている³⁾。

文化産業のひとつである芸術に関連する特徴的な場として芸術区がある。芸術区は作品を制作、展示、販売する場所⁴⁾、政策の影響を強くうけて変化する。

本研究は芸術区の中でも政府による管理がはじまってから 12 年が経過し、変遷を見ることができると大芬油画村を対象に「複製画」の大量生産の場が「国家文化産業示範基地」に指定され、管理運営主体と政策および施設整備がどのように変化したのかを明らかにすることを目的とする。

(2) 既往研究と本研究の位置付け

大芬油画村に関してはウォングの研究が最も詳しい⁵⁾。参与観察などの調査を踏まえ社会学の視点から大芬油画村で制作される複製画をめぐる事象と、それを批判的に活用する現代芸術との齟齬を通してフェイクと芸術の関係を考察した。本研究は政策との関係から研究対象を捉える点でウォングの研究とは異なる。そのほかの既往研究として、張⁶⁾ は都市計画の視点から画工の居住コストに着目し、アンケート調査によって大芬村の 1970 年代以降の居住空間とコストの関係の変遷を明らかにした。また、文化産業の視点からは銭⁷⁾、朱⁸⁾ は大芬村の産業の経営についてオークションなど複製画を含む油画に関連する産業の推進を提言した。また、宮⁹⁾ は大芬村の油画は商業的な装飾絵画としての価値を重視すべきであると提言した。

本研究はウォングをはじめとする以上の既往研究を用いながら、文化政策との関係から大芬油画村の変遷を明らかにする。

(3) 研究の対象と方法

研究の方法は文献調査とする。文献は大芬油画村に関する雑誌記事、新聞記事、書籍、ウェブの記事を用いた。雑誌、新聞、ウェブの記事は中国学術検索サイト「知網 (cnki)」において「大芬油画村」をキーワードで検索した結果から、地元の新聞「深セン特区報」(115 件)、「深セン商報」(116 件)、「南方日報」(11 件)、「中国文化報」(74 件)を対象とした。さらに、中国における主要な美術雑誌である「美術観察」(8 件)、政府の見方を把握するために中央政府文化部が発刊する「芸術市場」(14 件)の記事を対象とした。また、政策に関する公文書や記事は、中国中央政府(文化部や海関総署)、深セン市政府、深セン市都市計画局、竜岡区政府、大芬油画村のホームページから把握した。

補足として、文献で得た情報と各施設の位置を確認するために、2016 年 7 月に大芬油画村を目視で調査し、管理組織の業務内容や油画村に進出する画工や画家に関する状況を把握するため、大芬油画村管理弁公室の主任 (W 氏) に聞き取り調査を実施した。

(4) 対象地の概要

大芬油画村は深セン市竜崗区に位置し、深恵路(竜崗大道)と布沙路に囲まれ、敷地面積は約 400ha である。約 2 万人が働くが¹⁰⁾、そのうち画家および画工は約 8000 人¹¹⁾、大芬村内に居住しておらず籍だけがある住民は約 300 人とされている¹²⁾。画工が描いた複製画は¹³⁾輸出され世界の複製画の約 6 割を占めるとも言われる¹⁴⁾。

現在は画廊、額装業者、輸送業者、画材販売店、アトリエ、美術教室、油画貿易商の事務所、大芬村美術館、カフェ、画家住宅(大芬公共賃貸住宅)等で構成される(図-1)。主に油画を販売するが、近年では水墨画や工芸品、彫刻なども扱う。新聞記事によると、油画を販売する店は約 70%を占め、額装業および画材は 12%、水墨画や書を販売する店は約 10%、工芸業や美術教室は約 8%である¹⁵⁾。また、店舗外の空間を利用し、建物の間の路地や外壁を利用した販売、制作のスペースは「壁画廊」と呼ばれ、約 200ヶ所ある¹⁶⁾。ウォングによると、大芬油画村では老バン(老闊)

*筑波大学大学院世界文化遺産学専攻

**筑波大学芸術系

政府の支援は補助的なものにすぎない」いわゆる「大芬模式」であるとされた⁴²⁾。

同年、大芬村居民小組⁴³⁾は「大芬股份合作公司」に変更された。「合作公司」とは、従業員全員の投資と社会的な資産投資から構成され、労働や出資額に応じた配当を実行する公的な性格の強い企業の形態である⁴⁴⁾。元村長が「董事長」（株主総会の会長）、住民が株主となり、村内の土地の賃貸や不動産開発、などを管理するようになった。

(3) オリジナル作品の制作のための住宅政策

2007年には深セン市と竜崗区が268戸の低価格の公共賃貸住宅を建設した(図-1)⁴⁵⁾⁴⁶⁾。公共低価格賃貸住宅もオリジナル作品の制作のための人材の誘致と育成を目的とし、国家レベルの美術協会会員は3LDK約100m²の住宅を、省レベルは2LDK、市レベルは1LDK、大芬美術産業協会の会員は1DKの住宅を借りることができ、家賃は市場価格の50%~70%に設定された⁴⁷⁾。しかし、この住宅申請は、実績と学歴がある画家が優先されるため、最も多い一般の画工は該当しないという問題がある。一方、2007年の「芸術市場」の記事には大芬油画村の住民が、法的な契約を提供しないで住居を貸して家賃を値上げするため、家賃が払えずに村から出て行く画工もいるという問題が指摘された⁴⁸⁾。

(4) 広場および美術館の整備

政府は2004年に入口の古い住宅を壊し「油画広場」を整備し⁴⁹⁾、2005年に黄江は市場があった場所に「黄江芸術広場」を建設した(図-1)⁵⁰⁾。その他、建物外壁の塗り直しや道路の舗装、照明など環境整備を行った。2007年には「大芬美術館(図-1)」が整備された。美術館は著名な芸術家を招いて講演やシンポジウムを開催し、画工に交流や学習する機会と場所を提供した⁵¹⁾。

(5) 産業化促進の期待

この時期の『芸術市場』の記事は6件ある。紹介記事のほか、大芬油画村の経済的な効果を確認し「産業化」のために関連企業や組織を設立する必要があるとされた⁵²⁾。また、大衆の芸術への消費を拡大する役割を担うと期待される一方で、複製画の流行は深センの文化が浅く芸術の消費がないためであると指摘された⁵³⁾。

5. 第四期、オリジナル作品への転換(2008年~現在)

(1) 輸出の減少と政策の転換

2008年から2009年に起こったいわゆる「リーマンショック」が輸出主力の大芬油画村に大きなダメージをもたらした。2008年には「広交会」(中国輸出入商品貿易会)における大芬油画村の取引は従来の1/30まで激減し、個々の販売会社の取引量も25%~80%まで減少した⁵⁴⁾。2008年以前には8割が海外の売り上げだったが、2009年以降2割に逆転した⁵⁵⁾。このため、政府および画商は、海外向けの低価格の複製画の大量生産だけではなく、「オリジナル作品の制作と複製画の二本柱による発展」という方針を示した⁵⁶⁾。ホテルや家庭のインテリア装飾向けのオリジナル作品を複製したり、客の注文に応じてサイズ、色の変更などの「二次加工」を施したりすることもある⁵⁷⁾。現在、国内と海外の売り上げは同程度に落ち着いた⁵⁸⁾。

(2) 大芬美術家協会と文化産業発展弁公室の設立(表-1)

2009年には大芬美術家協会が設立した。大芬油画村管理弁公室主任W氏への聞き取りによると、入会の条件は、大芬油画村で活動し、市レベル以上の美術家協会の会員であることで、現在国家レベル24人、省レベル50人、市レベル約150人の協会員がいる。

同じ年に竜崗区全体の文化産業の「業務主管」と「業務指導」を担当する竜崗区の文化産業発展弁公室が設置された⁵⁹⁾。文化産業発展弁公室は大芬油画村管理弁公室を指導する立場として、事業の指導、財政部門と連携した基金管理、「文博会」、政策の実行、

企業へのサービスなど文化産業に関連する業務を担当する⁶⁰⁾。

2011年には「大芬油画産業股份有限公司」が設立した。設立以降、海外市場の拡大のための展覧会やオークションを開催し、村内の画廊への総合サービスの提供をはじめた。2012年5月には、オーストラリアに「オーストラリア大芬文化産業集団有限公司」という子会社を成立し、「大芬油画展示販売中心」を開いた⁶¹⁾。しかし、海外からの注文の激減だけでなく、国内に類似の複製画を生産する地区が開発されたため⁶²⁾、大芬村では画商や画工・画家の流失などにより経営が厳しい状況が続いている。

(3) 複製品の「工芸品」化とオリジナル作品の推進

2009年文化産業発展弁公室は清華大学の文化創意産業研究センターと連携し『深セン市竜崗区文化発展規画綱要2009-2015』を制定した⁶³⁾。この綱要では、大芬油画村は「高級工芸美術品」の項目に分類された⁶⁴⁾。

2009年に中央政府文化部および海関総署が美術品の輸出入に際し、各地域の海関および文化行政部門への申請と作品の審査を義務付ける法令を制定したため⁶⁵⁾、大芬油画村複製画の輸出量は減少した。このため、広東省文化庁、海関広東省分署は「大芬油画村の絵画はオーダー注文の『複製工芸品』であり、著作権に関わらず、美術品ではない」と定めた⁶⁶⁾。一方で、大芬油画村管理弁公室と大芬美術家協会は、年4、5回オリジナル作品を制作する画家向けの国内写生イベントを主催している。

(4) 販売および観光客向けの施設整備

2008年に「大芬油画交易広場(図-1)」⁶⁷⁾、2009年に「大芬廬浮(ルーブル)宮(図-1)」など展示販売の建物を次々に整備した。2008年には竜崗区政府が観光客誘致のため村の中心に長さ200m、幅3mの「珈琲街」を整備し、通り沿いにカフェや記念品を売る商店等の観光施設を誘致した⁶⁷⁾。

(5) 産業化の評価

「芸術市場」には2009年から現在までの8件中7件が肯定的な記事である。例えば2013年には収蔵や投資のための芸術品だけでなく、大芬油画村の複製画を「消費芸術品」に分類すべきとされた⁶⁸⁾。唯一の批判記事は2010年、大芬油画村の複製画などのローエンド製品を中心とした画家村は成長したが、十分な美術的素養がない消費者を増やし、オリジナル作品の市場に悪影響を与えるという内容であった⁶⁹⁾。

6. おわりに

大芬油画村は成立以来、政府の方針と市場経済の影響をうけて変遷し現在にいたる。本研究の結果から明らかになったのは次の2点である。

(1) 管理運営主体の混在

表-1で示したように、現在、大芬油画村はさまざまな管理運営組織がある。民間の画商からはじまり、地方政府、国などの管理が始まったが、当初は政府の支援は補助的なものにすぎないとされた⁷⁰⁾。しかし、その後は区政府の「大芬油画村管理弁公室」の設置により政府による整備と管理が進んだ。一方、公的な性格の強い企業や民間の組織も存在し、業務内容の分担が明確ではない。大芬油画村管理弁公室のW氏への聞き取りによると、現在、「大芬美術館」の土地所有権は政府に変更されたが、「茂業書画交易広場」と「大芬廬浮宮」は個人が所有する。また、大芬油画村の建物の所有権はもとの住民のままで、土地の開発権は大芬股份合作公司、建物の管理権は地方政府機関の大芬油画村管理弁公室にあるなど混乱が生じる原因となっている。

(2) 複製画とオリジナル絵画の位置付けの混乱

複製画の輸出がもっとも盛んだった第二期まではオリジナル絵画が一部で推奨されたものの、具体的な政策はなかった。その後第四期の輸出利益の激減により政府はオリジナルの制作を提唱

し⁷¹⁾、一方で輸出入の規制に対応するために大芬油画村の複製画は「高級工芸美術品」として輸出が続けられている。複製画であるかオリジナルの「芸術作品」であるかにかかわらず産業として利益を生むことを推進しているため、例えばオリジナル画家の誘致に問題がある一方で画工の流出が生じているなど、政策面でも芸術区としての方向性が錯綜している。

大芬油画村の特徴である複製画生産とオリジナル作品創作の境界は実際には曖昧であると指摘されている⁷²⁾。経済的な利益を重視する「文化産業示範基地」の複製画の販売とオリジナル絵画の制作という芸術活動を同時に推進する現在の政策はその曖昧さゆえに問題が多いと考えられる。今後は管理運営組織の担当業務の明確化と、複製画とオリジナル制作が一体となった大芬油画村の芸術区としての特徴を生かした支援政策が必要である。

補注及び引用文献

- 1) 国家「十一五」時期文化發展計綱要(全文)：人民網HP
http://culture.people.com.cn/GB/22226/71018/4814170.html 2006年9月13日更新,2016年4月20日参照
- 2) 「培育文化創意群體和內容提供商」国家「十一五」時期文化發展計綱要(全文)：人民網HP,http://culture.people.com.cn/GB/22226/71018/4814170.html 2006年9月13日更新,2016年4月20日参照
- 3) 章璐・黒田乃生(2016)：北京市における現代芸術の場としての芸術区の変遷：ランドスケープ研究(オンライン論文集)9(0), 16-23
- 4) 前掲3)
- 5) ウィニー・ウォン・イン・ウォング(2015)：ゴッホ・オンデマンド：青土社, pp. 377
- 6) 張坤(2014)：深セン大芬「城中村」居住空間と産業發展評価研究：現代城市研究(3), 91-95
- 7) 錢紫華・閔小培・王愛民(2006)：城市文化産業集聚力深セン大芬油画：熱帯地理(3), 269-274
- 8) 朱海玄(2007)：深セン市大芬地区文化産業及其空間模式探討和規劃：2007中国城市規劃論文集, 1566-1572
- 9) 宮豊敏(2013)：晚清外銷画と深セン大芬村絵画比較看中国商業絵画的發展と変化：西安美術学院修士論文
- 10) 南方日報新聞記事：大芬連盟議論油画企業抱团發展：2014年6月25日0D03版
- 11) 大芬油画村HP<http://www.cndafen.com/index.php?s=/About/index.shtml>2016年7月15日参照
- 12) 羊城晚報新聞記事：大芬昔日偏僻村 今變油画城, 2012年4月26日ZA22版
- 13) 大芬油画村HP<http://www.cndafen.com/index.php?s=/About/index.shtml>2016年7月15日参照
- 14) 王長祥(2011)：大芬現象, 是對藝術的顛覆還是藝術平民化的布道者：中国美術(2) 5-8
- 15) 深セン特区報新聞記事：大芬村將打造綜合性油画旅遊小鎮, 2016年7月25日
- 16) 晶報新聞記事：大芬村200「外壁」画家面臨遷移, 2011年3月1日第A09版
- 17) 前掲5, 61-66
- 18) 前掲10
- 19) 「第一回城鎮化(都市化)運動」とは1992年6月18日深セン市政府が公布した「関与深セン經濟特區農村城市化的暫行規定」の実施のことである。筆者注。
- 20) 張坤(2014)：深セン大芬「城中村」居住空間と産業發展評價研究：現代城市研究(3) 91-95
- 21) 光輝歲月, 繼往開來—記大芬油画奠基, 創始第一人黃江：新經濟：2015年16期, pp. 5
- 22) ウォング(前掲5, 74)によると, 黄江の例は他の老闆と同じで特別ではなかった。
- 23) 曾霽明・鄧代保(2012)：「三個布吉」樹深セン特区一体化標杆, 中国商報2012年8月17日第A04版
- 24) 深セン特区報新聞記事：大芬村將打造綜合性油画旅遊小鎮, 2016年7月25日A4版
- 25) 錢紫華・閔小培・王愛民(2006)：城市文化産業集聚力深セン大芬油画：熱帯地理(3), 269-274
- 26) 前掲5, 169
- 27) 中国中央電視台番組(2004)：大芬村的啓示：中国中央電視台HP<http://www.cctv.com/program/dialogue/20041209/101907.shtml>2004年12月9日更新,2016年8月6日参照
- 28) 深セン商報新聞記事：大芬油画村10年成為深セン文化地標, 2015年8月26日A21
- 29) 油画産業改變大芬村 深セン「文博会」分会场開幕：南方日報ネット記事<http://www.southcn.com/news/dishi/shenzhen/shizheng/200411180029.htm>2004年11月18日更新,2016年8月20日参照
- 30) 華南新聞新聞記事：「大芬油画村」一個文化産業的成長, 2004年6月7日第三版
- 31) 深セン市政府工作報告(2003)：深セン市政府HP<http://www.sz.gov.cn/zfzb/2003/gb326/200810/t20081019_96071.htm>2003年2月27日更新,2016年9月2日参照
- 32) 成立深セン文化立市及文化体制改革与文化産業發展領導小組(2003)：深弁[2003]15号, 深セン市政府HP<http://www.sz.gov.cn/zfzb/2003/gb335/200810/t20081019_95964.htm>2003年

- 4月24日更新,2016年9月2日参照
- 33) 深セン商報記事：深セン大芬村油画風靡海外, 2003年3月18日C04版
- 34) 中国文献検索サイト「知网(cnki)」「美術觀察」刊内「大芬」で検索
- 35) 杭海寧・許健・魯虹(2003)：京河兩地画觀察：美術觀察(5), 23-25
- 36) 何小培(2006)：大芬油画村, 中国文化産業的奇跡：花城出版社, 61-71
- 37) 雅昌藝術網ネット記事：雅昌榮膺「深セン市文化産業示範基地」<http://news.arttron.net/20051110/n5518.html>2005年11月10日更新,2016年8月13日参照
- 38) 深セン挙弁「権豊業示範基地」業務培訓及交流會議：深セン市版權協會HP:<http://www.scs.org.cn/news_detail.php?id=99&cid=2>2015年11月17日更新,2016年8月13日参照
- 39) 徐沛君(2004)：全面推進我国美術産業的發展—訪文化部文化産業司司長王永章：美術觀察(4), 6-7
- 40) 深セン市竜崗区布吉街道党工委, 布吉街道大芬油画編(2005)：大芬 芸術, 産業, 市場：金陵書社出版公司, pp. 47
- 41) 大芬村HP<http://www.cndafen.com/index.php?s=/Management/index.shtml>2016年7月15日参照
- 42) 崔育斌(2005)：藝術的産業化与産業化的藝術—由「大芬模式」引發的思考, 美術大觀(2), pp. 71
- 43) 2004年9月の深セン市城鎮化改革で「布吉鎮」は「布吉街道」に大芬村は「大芬居民小組」に変更されたが, 「大芬村」という名称は続いている。
- 44) 伊藤宣生・張侃(2005)：中国における企業形態—その現状の紹介—, 山形大学紀要(社会科学), 第35巻第2号, 37-69
- 45) 殷宏武・馬勤(2006)：為画家建造公共租賃房深セン竜崗区：政府援手「画家村」：中国経済週刊(37), 34-35
- 46) 南方日報新聞記事：10年嬗變統一大芬伝奇, 2015年1月14日A03版
- 47) 大芬油画村管理办公室のW氏への聞き取りおよび竜崗区大芬油画村人村公共租賃住房管理实施方案：竜崗区住房和建設局HP:<http://www.zjj.lg.gov.cn/zjj/ggfw/201603/7fe15ed4299b49edbf39ea52329e4.shtml>2015年7月31日更新,2016年8月1日参照
- 48) 劉匪東(2007)：画家村, 拯救了誰：藝術市場(12), 155-158
- 49) 温友平(2006)：大芬村的崛起：海天出版社, pp. 125
- 50) 竜崗新聞ホームページ：奇跡大芬十年 歷史的回顧<http://ilonggang.sznews.com/lgz/node_176606.htm>, 2016年12月7日参照
および：深セン商報新聞記事大芬村華麗轉身仍繼續, 2010年8月5日A5版
- 51) 画工と現代藝術の作家のぬじれの関係について(前掲10), に詳しい考察がある。
- 52) 陳瑞曉(2004)：大芬村打造油画産業基地：藝術市場(7), pp. 81
- 53) 馬繼東(2006)：深センの藝術市場到底怎麼了：藝術市場(5), 32-35
- 54) 画家在大芬村：第一財經週刊誌ネット記事:<http://xn-www-f00f506bd14alsg.cbnweek.com/v/article?id=18374>2011年6月13日更新,2016年8月23日参照
- 55) 胡軍鈴(2014)：轉型後的大芬村—2008年金融危機後大芬村調查：收藏投資導刊(24), 62-67
- 56) 深セン特区報新聞記事：大芬油画轉型之路步履維艱, 2012年7月12日A08版
- 57) 前掲5)
- 58) 大芬油画村HP<http://www.cndafen.com/index.php?s=/About/index.shtml>2016年7月15日参照
- 59) 2012年の規約による。大芬美術産業協會ホームページ<http://www.dafenart.org/xiehuigaiguang/xiehuizhangcheng/xiehuizhangcheng.html>2012年9月12日更新,2016年8月20日参照
- 60) 竜崗区文化産業發展办公室HP:<http://www.wcb.lg.gov.cn/wcb/jggk/list_jggk.shtml>2016年9月3日参照
- 61) 深セン特区報新聞記事：大芬油画村登録オーストラリア, 2012年5月15日A5版(2)
- 62) 前掲12)
- 63) 新華網ネット記事：如何培育産業品牌:<http://news.xinhuanet.com/politics/2010-05/13/c_1296180_3.htm>2010年5月13日更新,2016年9月8日参照
- 64) 竜崗新聞網ネット記事：深セン市竜崗区文化産業發展規畫綱要<http://ilonggang.sznews.com/lgnews/content/2009-09/23/content_4074793_5.htm>2009年9月23日更新,2016年9月9日参照
- 65) 文化部・海關總署(2009)：文化部, 海關總署關於美術品進出口管理的公告：中華人民共和國海關總署HP<http://www.customs.gov.cn/publish/portal0/tab515/info184304.htm>2009年7月10日更新,2016年9月6日参照
- 66) 深セン海關, 助力大芬村打造文化産業之都：中華人民共和國深セン海關HP<http://www.customs.gov.cn/publish/portal109/tab61265/info225455.htm>2010年5月27日更新,2016年9月6日参照
- 67) 深セン商報新聞記事：大芬咖啡休閒街開門迎客, 2008年5月15日A8版
- 68) 翟晶・孫中偉(2013)：定義藝術消費品, 讓市場走向有序：藝術市場(7), 116-121
- 69) 朱小鈞(2010)：當代藝術的中国式求解：藝術市場(2), 57-58
- 70) 崔育斌(2005)：藝術的産業化与産業化的藝術—由「大芬模式」引發的思考, 美術大觀(2), pp. 71
- 71) 孔令源(2009)：原創助大芬村度經濟寒冬：中国文化報新聞記事, 2009年8月14日12版
- 72) 前掲5), 209-261